

平成31年度 学校評価実施報告書

学校名(下京中 学校)

教育目標

— 志 きらめく — art science toughness

人の心を大切にし、多様な学びを通して持続可能な社会の担い手を育成する

年度末の最終評価

自己評価 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

学習アンケートでの「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている」という生徒の割合が〔昨年10月：63.6%→5月：68.4%→10月：88.4%〕と確実に増加している。保護者アンケート「子供は学校に行くのを楽しみしている」でも、昨年89.9%→今年93.2%がと良好な回答を得ている。教育目標の達成に向けて、教職員一丸なって教育活動に取り組んでいる成果が表れている。教育目標の実現の具体的な姿を明示し、より効果的な活動を進めていきたい。次年度は、カリキュラム・マネジメントの視点から、授業改善や人権課題の解決、伝統文化の継承、探究的な学習等を有機的につなげ、一体感のある教育を実践していく。

学校関係者による意見・支援策

・職場体験を行う際に生徒の希望を尊重して体験先を決定していることに課題を感じる。意にそぐわないことでも、我慢してやり抜く力を育てるためには、あまり生徒の希望を聞き過ぎない方がよい。今の生徒の対人関係の弱さを克服するためには、学校外での活動を大いに利用すべきである。そのことがいじめ等の未然防止にもつながっていくのではないか。
 ・授業をはじめとする教育活動全般について、概ねよく頑張っていると評価していただいた。課題である不登校生徒に対する取組は、ニーズに合った素晴らしいものであるので、継続していくべきである。職場体験や仕事場訪問等の取組について、地域・保護者としてこれからも積極的に参画し、より広く社会に開かれた教育を行いたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月19日	学校評価委員会
最終評価	2月18日	学校評価委員会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「資質・能力を育むための、教科の本質を踏まえた主体的・対話的で深い学びの授業実践」

具体的な取組

- 「資質・能力を育むための、教科の本質を踏まえた主体的・対話的で深い学びの授業実践」の確立
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の手法を取り入れ、「本質的な問い合わせ」「対話的活動」「振り返り」の授業デザインを確立させた授業改善に取り組む。
 - ・教科会を通して教科指導の交流をより活性化させ、OJTを活用した指導力の向上を図る。
 - ・教職員全体への理解を深めるための研修会を実施する。
 - ・全国の先進的な実践を取り入れ、教職員の指導力の向上に取り組む。
 - ・各教科で身につけさせたい資質・能力を明示した一覧表をもとに、教科を横断的に資質・能力の育成を図る。
 - ・パフォーマンス課題・評価の研究を進めるとともに、学びの深まりの判断（評価）について研究の推進し、アクティブ・ラーニングの取組を持続可能なものにする。
- キャリア教育を基盤とした教科授業の改善と学力分析
 - ・毎時間の学習の「めあて」・「見通し」を明示し、「まとめ」・「振り返り」を取り入れた「わかる授業」を開く。
 - ・教科等の年間指導評価計画に基づく実践と、総合的な学習を中心とした教科間のつながりを自覚し、横断的な授業を実践する。
 - ・京都市小中一貫学習支援プログラム等を活用し小中一貫した学力分析と対策の共有化を図る。
 - ・見通しをもった生活設計と自己管理能力を育成するための「きらめき手帳」の活用の徹底を図る。
 - ・自ら課題に気づき主体的に学ぶ意欲や態度を育むため、工夫した毎日の家庭学習課題を充実させる。
 - ・キャリア教育の視点をもって、一貫性がありつながりのある学習面と生活面の指導を行う。
- LD等支援が必要な生徒の学力向上
 - ・通級教室による学習支援と「学充（テスト前学充・土曜学充）の時間」の充実を図る。
 - ・個別の指導計画の教職員における共有化と、生徒一人一人の学習の躊躇の把握と丁寧な対応を行う。
 - ・個に応じた課題解決のためのICT（タブレット）を効果的に活用する。
- 言語活動と探究的な活動の充実
 - ・教科等における言語活動の充実を図り、図書館（マルチメディアルーム）を積極的に活用する。
 - ・総合的な学習の時間や特別活動において、討論活動やポスター・論文作成を通して言語活動の充実を図る
 - ・朝読書やビブリオバトル等を活用し読書活動を推進する。
- 外部刺激による研究・実践の充実
 - ・大学教授を講師に招き、パフォーマンス課題・評価等の先端の教育実践の研修を実施する。
 - ・先進校の取組事例に学び、互いに切磋琢磨する教職員集団を形成する。
 - ・情報交換の場の設定や視察受け入れ、地域の人材・学生等との協働により組織の活性化を図る。
 - ・学校運営協議会や保護者等の学校評価を活用した年度途中の自己検証機会を設定する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「授業は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして考えを深める場面がある」「授業は、学習内容を振り返ったり、まとめたりする場面がある」「授業の中で『分かった』『できた』と感じる場面がある」(生徒学習アンケート)
- ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」「思考ツールを活用した学びを深める授業づくり

りができている」「家庭学習の習慣の確立ができている」(教職員評価)

- ・「子どもは宿題を家庭で行っている」「子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができている」

(保護者アンケート)

中間評価

各種指標結果

- ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」 71. 8%
- ・「思考ツール等を活用した学びを深める授業づくりができている」 26. 3%
- ・「夢や目標をもって生活できている」 65. 6%
- ・「子どもは宿題を家庭で行っている」 92. 9%
- ・「子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができている」 55. 5%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学びを深める教育実践として、「本質的な問い」の設定、「対話活動」や「振り返り」を通したアウトプットを通して学びを深める実践を進めているが、その重要性を理解できていない教員も存在し、十分な成果を上げることができていない。
- ・本校の長年課題となっていた“自尊感情”や、“夢や目標をもちそれに向かって努力する”ことに改善が見られたが、全国学力学習状況調査においても、「国語や英語で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という回答には不十分な面が見られた。
- ・家庭学習として宿題に取り組む姿勢は定着している。しかし、自ら課題を見つけ、主体的にその解決のために取り組む態度は十分ではない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・資質、能力を育むため、教員が社会の変化を感じ、教科の本質的な学びをより追求する教育実践を一層充実させる。
その方策として教科会をより活性化させ、思考が活発になる授業展開、「対話活動」や「振り返り」のアウトプットによって学びを深める授業実践を徹底する。
- ・学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思うかという回答にも改善に課題が見られ、“この学習が将来のどんな場面で役に立つか”を生徒が実感できる授業を、教員がより意識する必要がある。
- ・課せられた家庭学習課題はできる生徒が増えたが、見通しをもち、次の学習につながる主体的に学びに向かう力を育成するために、「きらめき手帳」の効果的な活用と、授業の振り返りの実践を組織的に進める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・「授業の中で『わかった』『できた』と感じる場面がある。」
- ・「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている。」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・教師の工夫した授業により、生徒は落ち着いて学習することがよくできている。
- ・家庭学習への取り組み方について、PTA・学校運営協議会もできる限りの支援を行い、自主的に行える学習に発展させていく必要がある。
- ・教育環境がよく整備されていて、生徒は安全に快適に授業に取り組んでいる。ただ、何もかも生徒のために準備するのではなく、自分で何とかするというたくましさを培うことも大切である。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・「授業の中で『わかった』『できた』と感じる場面がある。」 93. 8%・「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている。」 68. 4%・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」 72. 1%・「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができている」 40. 5%・「家庭学習の習慣の確立ができている」 53. 5%・「子どもは宿題を家庭で行っている」 83. 7%・「子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができている」 51. 8%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・「資質・能力を育む授業デザインの構築『対話活動』『振り返り』のアウトプットを通して「本質的な問い」の解決を目指す教育実践」をテーマに授業改善の研究を行うことによって、生徒が主体に取り組み、本質的な学びにつながる授業作りができた。・「振り返り」を意識した授業実践によって、知識や経験をつなぎ学びを深めることができ、また、次の課題に向けての意欲の向上を図ることができた。・「思考ツール」や「本質的な問い合わせ」については、これまでの研究成果を、教職員全体で再確認する必要性を感じた。・家庭学習の定着のために取り組んでいる“きらめき家庭学習”プリントについては、学習時間の確保を定着につなげることができた。ただし学習効果という点では、改善の余地がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・授業での「対話活動」や「振り返り」のアウトプットは、生徒が主体的に学ぶための重要な要素であるとその有用性を確認した。日常の授業において、アウトプットの場面が多く設けた授業デザインを目指し、研究を進めていく必要がある。具体的には「わかった」「できた」と生徒が感じる授業づくりにおいて、自分の意見を発表したり、他の意見を聞いて考えを深める場面が効果的であることがアンケートより分析できた。「対話活動」の重要性を確認し、その効果をより高めるために教員のファシリテーションの指導技術を向上させたい。・学校教育目標の達成を目指し、育成する資質・能力を明らかにしたカリキュラム・マネジメントを行い、総合的な学習を要とした横断的な授業改善を進める。・「授業で学んだことが、他のことにも生かされている」と実感できていない生徒も多く、引き続きキャリア教育の視点をもった授業デザインの構築を進める。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・授業全般において落ち着いた環境の中、創意工夫された授業がしっかりと行えていると評価していただいた。・総合的な学習での探究活動におけるポスターセッションは、大変意義のある取り組みである。課題設定に、工夫が足りない生徒もいるが、多くの生徒が興味深い課題に取り組んでおり、生徒が主体的に取り組めていることを感心され、ぜひ継続してもらいたいと意見をいただいた。・2年の職場体験学習や1年のしごと場訪問では地域にある事業所により協力を要請し、職業観を醸成するとともに、何のために勉強するのかという意識を地域ぐるみで育てていきたい。また、これらの取組で育成を目指す資質・能力について、事業所と共に理解を図り、より効果のある活動となるように、学校側からはたらきかけるべきであると意見をいただいた。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

充実した道徳教育や支え合い高め合える集団づくりを通して、豊かな心を育む教育活動を推進する

具体的な取組

○主体的、自主的、自律的な態度の育成

- ・夢をもち、目標の実現に向かって主体的に行動できる力を身につけるためのキャリア教育を進め
る。
- ・自己の将来展望を見据え、自分の生き方について、深く考えることのできる学習機会を設定する。

○支え合い互いに高め合える集団づくりと規範意識の醸成

- ・人権教育を基盤とした人間関係づくりを通して、多様性を理解する姿勢を涵養する。
- ・「命」を大切にする心や他人を思いやる心を育成するための、道徳の時間や人権学習を中心とした教育活動を充実させる。
- ・生徒会活動の活性化と学年・学級活動や部活動等における心理的な居場所のある集団づくりを行
う。
- ・学校行事を通じ、学級や学年、学校への帰属意識を高めることによって愛校心を醸成する。
- ・学校と家庭との連携により法やルールの重要性を自覚させ、規範意識を育成することによって、
「守らされているもの」という意識ではなく、自ら行動できる態度を育てる。
- ・人権侵害やいじめ・性被害等のSNSトラブルを未然に防止するネット利用のルールづくりを徹
底する。
- ・家族や仲間等、周囲の人への感謝する心、公共心や公徳心を育成する。

○安全な環境整備と心の健康を意識した教育活動の推進

- ・考え方議論する授業、認め励ます評価によって道徳の授業を活性化させる。
- ・地域の人材を活用し茶道体験や和食調理体験、ゆかた登校などの伝統文化や地域の伝統産業を体
験し、「ほんもの」に触れる学習を行うとともに、自らも伝統と文化の担い手であることを実感
できる取組を充実させる。
- ・持続可能な社会の実現に向けて、総合的な学習での探究活動・体験活動等との関連を図り、道徳
的価値の理解を深める指導を行う。

○いじめ防止、不登校対策の強化、共生社会の構築

- ・「報・連・相」の徹底と「学校いじめ防止基本方針」に即し、「見逃しのない観察」「手遅れのない
対応」「心の通った指導」を学校組織として適切に行う。
- ・いじめアンケートやクラスマネジメントシートを活用した、いじめの予防と早期発見に向けて取
組を組織的に実践する。
- ・いじめ対策委員会・不登校対策委員会を活用し、SCや関係機関と連携したきめ細かな対応を行
う。
- ・学校運営協議会を活用した「社会に開かれた教育課程」による、地域活動に主体的に参画し、社
会貢献する意識と行動できる態度を育成する。
- ・よりよい社会や生活、人間関係を構築するとともに、手話や点字、ユニバーサルデザイン等の学
習を通じ、障害理解や互いを尊重し違いを認め合い共に成長し合える態度を育てる。
- ・生きる喜びや命を大切にし、充実した学校生活を送ることができる学校体制づくりを行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「自分には良いところがあると思っている」「夢や目標をもって生活できている」「自分の気持ちを理解してくれる友達がいる」(生徒アンケート)
- ・「他を思いやる指導・自分を大切にする指導・いじめを見逃さない指導ができている」「ルールを守る態度の育成ができている」(教職員評価)
- ・「子どもは、自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができている」(保護者アンケート)

中間評価

各種指標結果

- ・「自分には良いところがあると思っている」 62.5%
- ・「クラスでは気になることがある」 39%
- ・「子どもは、自分を大切にした行動ができている」 85.7%
- ・「子どもは、仲間を大切にした行動ができている」 100%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・自己肯定感について課題が見られる。仲間を大切にする姿勢は育っているが、周囲を気にし過ぎる傾向があり、自分の行動に自信がもてない。
- ・人権学習や道徳の時間を活用して人権についての指導を日常的に行い、自他を大切にし、いじめを見逃さない体制作りができている。また、障害のある生徒に対する理解に努め、個に応じた指導体制ができている。
- ・ネット利用について民間の啓発活動も活用しながら行っているが、SNSトラブルが依然多く起こっている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒指導三機能のチェックシート等を活用して、日常的に自己指導力を育成する活動を進める。特に自己決定の場を与える、自己存在感を与えることについて、これまで以上に留意して、生徒との関わり方を工夫する。
- ・学級活動や学校行事を通して、集団の中での自身の役割をやり遂げる経験を積み重ねることによって自尊感情を高める。また、集団活動を通しての達成感を経験することにより、協働することの意義や可能性の広がりについて学ばせる機会をもつ。
- ・SNSトラブルを未然防止するためのネット利用のルール作りの徹底を図るとともに、最新の課題について教職員・保護者が研修を行う。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・「他者(多様性)を認め、思いやる指導・自分を大切にし、自己肯定感を高める指導・生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができている」「ルールを守る態度の育成ができている」
- ・「子どもは、自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができている」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・少しのことで傷つき、立ち上がることができない生徒が増えている。学校は、社会の厳しさを教えるために、適度に突き放すことも必要である。
- ・中学校の授業はよく工夫されており、生徒は安心して授業に取り組むことができている。
- ・SNSトラブルは依然、社会的な大きな問題である。地域でも生徒の様子をしっかりと見守り、使用制限だけでなく、関わり方に関するモラルを育て、未然防止に努めたい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・「他を思いやる指導・自分を大切にする指導ができている」 81. 4 %・「自分を大切にし、自己肯定感を高める指導ができている」 81. 4 %・「いじめを見逃さない指導ができている」 86 %・「ルールを守る態度の育成ができている」 88. 4 %・「子どもは、自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができる」 98. 7 %
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学校教育目標として「人の心を大切にする」を掲げ、一年間、自他之心を大切にする教育を行うことができた。いじめ問題については、いじめアンケート、クラスマネジメントシート等を活用し、教職員間で綿密に情報交換を行い、発生したいじめ事案は速やかに解決することができた。また、その防止に向けて生徒指導三機能を活かした学級活動や生徒会活動を行った。・不登校の課題解決を目指し、「マイ・プレイス」と名付けた別室を設立し、教室復帰を前提としない取組を始めた。20名の対象生徒のうち8名が別室に登校できるようになり、居場所づくりの点において成果を上げることができた。・ケータイ・スマホ等のSNSトラブルは依然発生しているが、LINE株式会社のケータイ教室は、生徒目線の話題提供で分かりやすく生徒の反応も良く効果的であった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒指導三機能のチェックシートを有効に活用し、授業や生活場面における自己指導能力の育成を図る必要がある。本年度は、小中合同研修会等で研修を進めたが、「自己決定の場を与える」について不十分な点が明らかになった。次年度はこの点を意識した活動を進める必要があるが、具体的には行事において生徒による企画・運営をより進めていく。また、授業の中で生徒に考える時間や発表の場面を工夫し、学習面と相乗効果のある取り組みを行う。・不登校への取組である「マイ・プレイス」については、一定の成果を上げることができたが、入室の基準や、個別の支援計画等において未整備の面がある。これらの面についての整備を進め、不登校の課題を抱える生徒が安心して通い、次へのステップになる場所になるよう改善を行う必要がある。・クラスマネジメント調査等が有効に活用されていない面があり、いじめアンケートや教育相談アンケートと合わせて正確な生徒・学級の実態把握を進めるとともに、適切な指導を行うための判断材料として活用していく。・いじめ問題をはじめとする問題行動への指導について、担任一人の判断で指導を急ぎ、保護者の不信感を買う場面があった。迅速な指導は必要であるが、生徒やその保護者の意向を十分に踏まえた指導の重要さを実感した。この点を共通理解し、迅速かつ適切で丁寧な指導について研修を進めていく。・ネットモラルについては、引き続き情報拡散の危険性を十分に伝え、生徒だけでなく保護者の啓発活動も行う。生徒を取り巻くネット環境の変化を理解する教員研修も行う必要がある。・道徳や人権学習の時間を中心として、人権意識の醸成を図ることができた。本校が抱える地域の人権課題について教職員が十分認識し、より効果的な指導を行うため教職員研修を進めるとともに、指導内容や指導方法の見直しを図っていく。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の課題の解決に向けた「マイ・プレイス」の取組について好評を得た。学校として生徒の状況をしっかりと把握し、保護者と協力しながら、生徒に応じた指導が必要である。引きこもりが社会問題としてクローズアップされているが、重要な問題であることを家庭・地域がより認識し、連携を強めた取り組みを進めてもらいたい。 いじめ問題は、全国各地で多発しており、命の問題と直結している。「いのちプロジェクト」は、とても良い取組であり、多面的に人の心を大切にする活動を進めることが重要である。 地域では、まずは挨拶を通してつながりを築き、温かく見守っている環境を保っていきたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

社会との関わりを踏まえた、人間としての生き方を見つめさせる指導の充実と環境の整備

具体的な取組

○望ましい生活習慣の確立

- 健康を保持し規則正しい生活の習慣を確立するため、睡眠の重要性の啓発と、飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性について正しい知識と危険な行為から身を守る指導を徹底する。
- 家庭と連携・協働しネット依存による学習や睡眠時間への影響の啓発と、使用時間の制限等のルールづくりとそのルールを守る態度を育成する。
- 運動やスポーツに親しみ、健康を大切にする態度を育てる。

○道徳教育の充実

- 他者への思いやり等の道徳的価値を理解し、主体的に判断し適切に行動できる態度と、集団として高め合える態度を育成する。
- 道徳教育推進教師を中心とした、教育活動全般において道徳教育を推進する。

○自己指導力の育成

- 生徒が自分や自分たちで考えて決めて実行する“自己決定の場を与える”を意識的に設ける。
- 生徒一人一人をかけがえのない存在として捉え、他者のとの比較ではなく生徒の個別性や独自性を大切にした“自己存在感を与える”関わりを意識的に行う。
- 教職員と生徒、生徒と生徒が互いに尊重し、理解し合える“共感的な人間関係を育成する”。
- 集団の一員として協力する態度、ルールや法の重要性を理解して自ら行動できる態度を育成する

○保健体育の授業及び部活動の充実

- 保健体育授業の時間確保と運動環境を整備する
- 部活動時間のあり方を見直し、適切な活動時間と家庭・地域で過ごす時間を確保し、心身の健康を増進し、自尊感情を高めることができる充実した時間となるように取り組む。

○学習環境の充実

- 保健室、SC室等の心理的な“空間”的整備と、 “空間”を効果的に活用した心理的変化の早期発見の場となる運営を行う。
- ケガや病気を防ぎ、健康的で安全な教育環境の維持のために日常的に取り組む。
- 施設などの安全点検と迅速な修理修繕による安全整備を実施する。

○安全教育の充実

- 危機管理マニュアルに基づいて、研修や訓練を行い、家庭との共通理解を図る。
- 生徒自身が学校や地域での危険を予測し、災害発生時に適切に行動できる学習を充実させる。

○教職員の肉体的精神的安定を図るための組織づくりの確立

- ・教職員自身が健全な心身を持つことが、教育活動の充実を図るために不可欠であり、職場内の絆づくりを積極的に取り組める組織づくりの確立を目指す。
- ・教職員の健康保持のため、勤務の効率化を進め、時間外勤務の短縮を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「朝食を毎日食べている」・「毎日よく眠れている」・「何かイライラしてしまうことがある」(生徒アンケート)
- ・「規則正しい生活習慣の確立ができる」(教職員評価)
- ・「子どもはルールや決まり事を守ることができている」(保護者アンケート)

中間評価

各種指標結果

- ・「朝食を毎日食べている」 92. 2%
- ・「毎日よく眠っている」 68. 8%
- ・「何かイライラしてしまうことがある」 59%
- ・「規則正しい生活の習慣の確立ができる」 73. 2%
- ・「子どもはルールや決まり事を守ことができている」 85. 1%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・睡眠時間が短いという課題はあるが、概ね規則正しい生活習慣が確立されている。
- ・防煙教室や薬物乱用防止教室、目・歯の健康教室等、健康についての正しい知識の定着と、危険な行為から身を守る指導の徹底はできている。
- ・学校のルールや規則は守ることはできているが、家庭でのケータイの使用に関してのルールについては課題が根深く、今後も取組を続ける必要がある。
- ・部活動ガイドラインの設定により、活動時間は大幅に改善している。週2日以上の休みを徹底し、家庭や地域で過ごす時間を確保することができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・外部機関や校医等を効果的に活用し、健全な生活習慣の確立に向けて取り組むとともに、保護者への啓発活動も行い、危険な行為から身を守る指導の徹底を継続する。
- ・日常の細やかな生徒観察を通して、生徒の心の変化を敏感に察知し、共感的人間関係を築き心に寄り添った指導を徹底する。
- ・部活動ガイドラインの徹底による活動時間の縮小によってできた部活動以外の時間の過ごし方について、学校と家庭で協力体制を構築し、課題である家庭学習の時間増加につなげる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができている」
- ・「規則正しい生活習慣の確立ができる」
- ・「子どもはルールや決まり事を守ことができている」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・薬物乱用の課題については、対岸の火事ではなく、ネットの普及によって誰でも薬物が手に入る状況を認識して、当事者意識をもって学校・家庭・地域が協力する必要がある。
- ・地域での挨拶の励行や、地域行事への参加を通して、家庭や地域が子供を見守る姿勢を持続け、健全育成に向けて学校と連携することの大切さを再確認しなければならない。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・「規則正しい生活習慣の確立ができている」 81.4%・「いじめを見逃さない指導ができている」 86%・「子どもはルールや決まり事を守ることができている」 87.1%・「子どもは学校に行くのを楽しみしている」 93.2%	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 <ul style="list-style-type: none">・規則正しい生活については概ね確立しており, 心の不調を訴える生徒も減少している。・インフルエンザ等の感染者も少なく, 手洗いやうがい, マスクの着用等を自主的に行う生徒も多く, 生徒の健康について意識は向上している。・保健体育の授業でケガをする生徒は依然多く, 日頃からの運動の習慣を課題として感じた。小学校とも連携して, 運動習慣の確立に取り組む必要がある。・「目の健康教室」と「歯の健康教室」を, 今年度初めて連続して1時間で実施した。内容は盛りだくさんであったが, 健康への関心を高めることに効果的であった。・防煙防止, 薬物乱用防止や性教育についての啓発学習を行ったが, 薬物乱用防止については, 繰り返し何度も行い, 薬物に対して生徒が拒絶する程にインパクトを与える必要がある。
分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・養護教諭や保健体育教諭が中心となり、規則正しい生活習慣についての啓発を進めるとともに, 学習効果の観点からも指導することができた。・インフルエンザや新型ウィルス感染防止に向けて, 生徒の健康教育をより充実させる必要がある。感染防止に役立つ生活習慣を確立させるとともに, 正しく恐れるための知識が定着するよう, 養護教諭や保健体育教諭が中心となった保健教育の改善を進める。・保護者に対して、薬物乱用防止についての啓発活動をこれまで以上に進め, 薬物がいつでも誰でも手に入る状況であることを周知し, その対策に向けてこれまで以上の危機感をもつ。・相談数は減少したが, 心のケアを必要とする生徒は多く, その対策として教職員の研修を進める。担当する生徒だけの把握に留まらず, 全教職員で全生徒をケアする意識を浸透させる。
学校関係者による意見・支援策	

(4) 学校独自の取組

重点目標
キャリア教育の推進を視点に学校行事運営や生活指導・部活動指導を進める
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">○道徳の時間において, 22項目のそれぞれがキャリア教育の基礎的・汎用的能力のいずれに当てはまるのかを明確にした実践○総合的な学習の時間において、「人権学習」「生き方学習」「伝統文化体験学習」「探究学習」の4つの分野のそれぞれでキャリア教育の視点をもち, 自己の生き方を考える取組の実践

○キャリア教育の視点に立って特別活動・生徒会活動の実践

○キャリア教育の視点に立っての部活動指導

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「授業で学んだことが他のことにも生かされている」「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」(生徒アンケート)
- ・「探究学習を充実させた指導・伝統文化体験学習を充実させた指導ができている」(教職員評価)
- ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」(保護者アンケート)

中間評価

各種指標結果

- ・「授業で学んだことが、他のことにも生かされている」 78. 9%
- ・「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」 74. 4%
- ・「探究学習を充実させた指導ができている」 48. 7%
- ・「伝統文化体験学習を充実させた指導ができている」 61. 6%
- ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」 92. 8%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・道徳教育の充実を図るため、すべての教育活動にキャリア教育の視点を当てはめ、自分の生活を振り返り、見通しをもった行動するための効果的な指導を行うことができた。
- ・道徳の時間について、副読本等を活用し、認め励ます評価を適切に行いながら 22 項目の実践を進めている。
- ・学校教育目標達成に向けて、総合的な学習の時間の「人権学習」を Human Time、「生き方学習」を Toughness Time、「伝統文化体験学習」を Art Time、「探究学習」を Science Time として、4 分野において、自他を大切にして多様な価値を認め、自己の生き方を考える取組が実践できた。
- ・生徒会活動において自主・自律を育てる取組を行い、自己指導力のある生徒の育成につながる実践ができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学級活動や学校行事を行う際に、キャリア教育の視点をもって取り組むとともに、道徳的価値を明確にして実践する。
- ・今学んでいることと将来のつながりを意識し、資質・能力を育成し、自分らしい生き方の実現のために行動できる取組を行う。
- ・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、総合的な学習の時間を核として、教科や道徳の時間の有機的に結びつけ効果的な学習を進める。
- ・2 年生の探究活動の中間発表であるポスターセッションに、学校運営協議会理事や、つながりネットワークの役員の方に参加してもらい、世代を超えた意見交流の場を設ける。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・「授業で学んだことが他のことにも生かされている」「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」
- ・「探究学習を充実させた指導・伝統文化体験学習を充実させた指導ができている」
- ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと意識できるような職場体験（2年）やしごと場訪問（1年）するために、地域の事業所に協力を依頼し開拓していく。 ・探究学習において、地域の大人が参画することは、子供とのいろいろなやりとりを通して、今の子供の考え方を知るのに役立ち大いに意義がある。 ・伝統文化体験学習に地域が参画することは、地域の人々の活力につながるだけでなく、生徒にとっても地域に関心を向け、今後地域を担う自覚を育てることになる。

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業で学んだことが他のことにも生かされている」 70. 4% ・「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」 68. 4% ・「探究学習を充実させた指導ができている」 53. 5% ・「伝統文化体験学習を充実させた指導ができている」 59. 5% ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」 88. 3%
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員側の他教科の授業内容についての把握が十分でなく、学んだことを活かす場面設定の機会を逃していることがあった。生徒自身はつながりを感じているため、教員からのはたらきかけ次第で、知識のつながりを強く感じる効果的な授業が行えると感じた。 ・2年の探究学習では生徒の興味のある課題についてグループで取り組ませた。探究のプロセスを踏まえて、有意義な学習ができた。ポスターセッションで地域団体にも参加してもらい質問や意見を出していただいた。様々な角度から考えることの重要性を知るとともに、地域の方々の学校への理解を深めることにもつながった。 ・道徳の時間について、持回り授業を取り入れたりしながら、工夫した活動を行うことができた。副読本として利用したノートについて、使いにくい面が多く、改善の必要性を感じた。 ・総合的な学習においては、人権学習・伝統文化学習・探究学習・生き方学習の4分野について系統だった活動を進めることができた。特に、伝統文化学習については、地域人材を活用し、伝統文化の担い手として生徒の自覚を育成するとともに、地域の学校教育への参画を促す効果的な取組ができた。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの観点から、総合的な学習が要となり、育成を目指す資質・能力をつなげ、各教科との横断的な学習を再構築していく。具体的には、教科内容での横断的な学習で生きて働く知識・技能の育成を図り、資質・能力でのつながりを明らかにすることで未知の状況に対応できる思考・判断・表現力の育成を図る。 ・1年のファイナンスパーク学習・しごと場訪問、2年の生き方探究チャレンジ体験学習、3年の高校見学が、資質・能力の育成の面で連続したものとして改善するとともに、自分らしい生き方の実現という本来のキャリア教育の目的を強く意識して取組を進める必要がある。 ・今年度より道徳の時間の評価が実施されたが、教職員は手探り状態であり、適切で効果のある評価という点で、さらに研修を進めなければならない。年度末だけの評価であったが、次年度は、学期末ごとに評価を行い、タイムリーに家庭と連携した道徳教育を進める一助としたい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のポスターセッションに参加し、生徒が関心をもっているテーマが興味深かった。生徒たちは自分なりに仮説を立て、一生懸命に調べたことがよく分かり好印象であった。このような学習をする経験は、必ず将来に役立つと思われる。 ・家庭科の介護の学習に、地域住民や保護者が参画したことは、とても良い取組であった。社会に開かれた教育課程の実現においても意義深いものであった。生徒も熱心に授業に取り組んでおり、学習効果も高いと思われる。今後もこのような授業を続けてもらいたい。 ・学校の教育の成果は、各種のアンケートや調査に表れている。現在の取組に自信をもって教育活動を続けてもらいたい。今後も地域として学校教育に対して積極的に協力したい。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	時間外勤務時間の削減と業務の効率化・適正化の推進
	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の削減に向けた教職員の意識改革を図るため、他校の取組や成果を伝達する。 ・業務の効率化を図るため、職員会議等の資料のペーパレス化や、会議の精選を行う。 ・定期テスト最終日の部活動の時間短縮を行い、採点業務の時間確保を進める。 ・三者懇談会や家庭訪問時の部活動時間の短縮を行い、臨時顧問等の負担を軽減する。 ・事務職員や管理用務員が、学校行事の運営や配布物印刷等の役割を担い、教員の負担軽減を行う。 ・学校支援ボランティア、観察実験アシスタント、総合育成支援教育ボランティア、学びのパートナー、学生ボランティアを活用し、授業や部活動、生徒支援の充実を図るとともに教職員の負担軽減を行う。 ・部活動指導員や外部コーチを活用し、部活動指導の充実を図ると同時に、顧問の負担軽減を行う。 ・部活動ガイドラインの徹底を図り、効果的な部活動を行うと同時に、顧問の負担軽減を行う。 ・留守番電話機能を活用し、保護者に対して勤務時間の理解と業務時間の縮小を図る。 ・学校独自の取組である「N o 授業 d a y」を活用し、年休取得促進と健康増進の推進を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標	
「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」「自己の健康管理」(教職員評価)	

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	<p>「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」 79 %</p> <p>「自己の健康管理」 72. 1 %</p>
	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間に対する意識は確実に変化してきている。教頭からの粘り強い声かけも功を奏し、退勤時間が極端に遅くなる教職員は激減した。事務職員や管理用務員の業務の幅を広げたことも、教職員の負担軽減につながっている。 ・部活動支援員・外部コーチ・学校支援ボランティア、観察実験アシスタント、総合育成支援員、総合育成支援教育ボランティア、学びのパートナー、学生ボランティアと、様々な制度をフル活用し、教職員の業務の軽減を図ることができた。 ・「統一閉鎖日」だけでなく、定期的に「働き方を見直すD A Y S」を設定し、勤務の在り方を見

	<p>直し業務の改善を促した。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 勤務時間に関する意識は変容してきたが、「働き方改革」の趣旨理解を再度徹底する。 教職員の健康増進のために、勤務の在り方だけなく、勤務時間外の過ごし方や体調管理について幅広く研修を行う。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>「教職員の表情はイキイキしていると思いますか。」(学校関係者アンケート) 「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」「自己の健康管理」(教職員アンケート)</p>
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員は、熱意をもって教育活動を進めているのが伝わっている。しかし、遅くまで学校に灯りがついていることを心配している。教職員が健康を損ねることのないように努力をしてほしい。 多様な課題が山積する中、学校が全ての問題を抱えてしまうないように、保護者や地域と連携して業務の効率化を図る必要がある。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>「教職員の表情はイキイキしていると思いますか。」(学校関係者アンケート) 88%</p> <p>「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」(教職員アンケート) 73.3%</p> <p>「自己の健康管理」(教職員アンケート) 64.5%</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組の多さを改善する必要はあるが、教職員はやりがいを感じ、いきいきと活動することができていた。ストレスチェックにおいても、多忙感はあるものの、大きなストレスを感じている教職員はいなかった。 教職員の意見を反映した取組なっていない面もあり、その面に関して改善の余地がある。 時間外勤務の状況は改善しているが、依然、時間外勤務をせざるを得ない状況である。 体調を崩して休みを取る教職員は少なく、健康管理への意識はできている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントの視点で、授業や行事を見つめ直し、効率的に時間を使い一体感のある教育活動を進める。 一部の教職員に負担が偏らないように留意し、風通しのよい透明感のある環境を構築し、働きやすい職場であるために、学校関係者評価を活用していく。 業務の効率化・適正化は、教職員の重要課題であることを再認識し、職場のブラック化を防ぎ、生徒が将来、学校で働きたいと思えるような魅力ある職場づくりに努めたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 来校者に明るく挨拶し、気持ちの良い対応ができる教職員がほとんどである。職場としては、健全でいい雰囲気であるように思う。多くの仕事を抱え忙しいと察するが、体調管理を最優先して、子供と明るく元気に接してもらいたい。